政務活動費　活動実績報告書

件名	会派「政策ミライ」先進事例視察研修
使途	①調査研究費　　2 研修費　　5 要請・陳情活動費
金額	７４，０３９円
期日	令和６年７月９日（火）～令和６年７月１１日（木）
場所	① 三重県伊賀市 ② 三重県桑名市 ③ 大阪府箕面市
目的	① 関係人口創出事業「IGABITO 育成事業」について ② 「コラボ・ラボ桑名」公民連携の取り組みについて ③ 新市立病院整備事業について
報告者	八女市議会議員　原田英雄
参加者	中島信二、高橋信広、栗山徹雄
概要	① 三重県伊賀市（説明：松山議会事務局長、福森地域創生課長、植田地域創生係長、内山） 1.あいさつ（西口和成議長） 2.関係人口創出事業「IGABITO 育成事業」について 事業化の経緯：平成２８年に地域再生計画を策定。伊賀市人口の社会減を解消するため、単に若者の転出を抑制するだけでなく、将来的に U ターンを志向し、市内に定住するための長期的な視点による取り組みが必要との方針を定める。 第１期（H28～30 年度）：IGABITO 育成ビジョンの作成、市内高校との連携開始、伊賀市若者会議の設置 第２期（R1～3 年度）：市内高校への活動支援、専門事業者による活動支援、IGABITO 育成事業補助金による活動支援。 第３期（R4～現在）：関係人口と共にデザインする全世代活躍の持続可能な伊賀市づくりプロジェクト、伊賀市若者交流拠点応援補助金。 現状：IGABITO 育成事業を継続しつつ、高齢者を含むシニア世代へ事業を拡大展開し、人口減少の抑制、移住定住人口の増加に向けて取組んでいる。 財源：デジタル田園都市国家構想交付金（１．４億円×1/2 補助×３年）、企業版ふるさと納税など。 R5 年度に実施した事業

【個別プロジェクト】
・若者ファーム…農業を通じた地域交流
・＃いがまるエール…市内事業者や高校との連携・情報発信
・COMO プロジェクト…子育て世帯への情報発信・企画
・伊賀音楽の集い…音楽で伊賀を元気にする活動
・広報宣伝部…若者会議の宣伝活動
・来～さあ～くる…個別プロジェクト間の連携を強める活動
【市政参画事業】
・秘書広報課…伊賀市制施行２０周年記念事業ほか各課の事業計画に参画
【その他の事業】
・ふるさとサポーター…ふるさと伊賀の魅力を PR。現在８６名
・ふるさと納税を通じた関係人口創出…LINE アカウントにセグメント機能を追加
・プロフェッショナル人材育成プログラム…行政職員の育成を図るため、「伊賀創生研究会」を設置。

② 三重県桑名市（説明：政策創造課近藤課長、日紫喜補佐、竹口主任、暮石主事）
「コラボ・ラボ桑名」公民連携の取り組みについて
事業化の経緯：厳しい財政状況と将来人口減に備え財政健全化を図る必然性から公民連携して取り組みを始めた。
【ネーミングライズ】
・まず広く市民に理解して頂くため、体育館やグラウンド、ゴミ出しカレンダーなど分かりやすいものから取組んだ。現在は、歩道橋や遊歩道、市役所駐車場まで命名権を設定し、取組んでいる。
【民間委託、指定管理等】
・市役所駐車場は従前２５０万円の維持管理費がかかっていたが、民間委託の結果１２０万円の黒字となった。
・市で整備構想があった「神馬の湯」健康増進施設については、民間の提案により全て民間の財源で整備、運営されることとなり、喜ばれている。
・民間のマッチングアプリと連携し、各種婚活イベントを官民協力し取組んでいる
・これらの提案は、民間からいつでも受け付けている。
【民間提案の種別】
・テーマ型提案…予め市が示した内容について、民間から提案を受けるもの。
・フリー型提案…市の事務事業を中心に歳出削減、歳入確保、市民サービス向上に係る提案を受けるもの。
【第３の事業】
・第１の事業（公設公営）、第２の事業（公設民営、PFI 等）、以外に民間のノウハウを活かした新たな施設整備方法を第３の事業として取組んでいる。

③ 大阪府箕面市（説明案内：新市立病院整備室三好室長）
新市立病院整備事業について
【現箕面市立病院の経営状況】
・長期的に赤字が続いており累積約１０６億円の赤字である。

	・コロナ関連により令和３年度、４年度は単年度黒字になったが、厳しい経営状況である。 ・令和３年度に医療の質向上・経営改善委員会と収益向上・コスト削減・人事給与改革のＰＴによる検討体制を組織化。 ・令和６年から令和９年にかけて「箕面市立病院経営強化プラン」を作成し取組んでいる。 【新市立病院の指定管理制度導入経緯】 ・現市立病院の老朽化と最新の医療機器設置が困難、医療需要に対し病床不足などから建て替えを決定。 ・現行単純改築では病床拡大が困難なため、他病院の廃止統合が不可欠。 ・市負担が少なく、かつ民間のノウハウを活かし、病床確保が出来る指定管理者制度が最も望ましいとの結論に至った。 【職員身分変更の課題】 ・職員は分限免職となるため、雇用継続や現給保障を組合とも協議しながら現在に至っている。 ・現給保障に伴う人件費増分は市が５年間負担する方針であるが、組合との最終合意には至っていない。 【市民への説明】 ・市長タウンミーティングを令和４年から各地へ出かけて行なうほか、市民説明会を毎年開催してきた。 【新病院の基本的な方向性】 ・高度かつ質の高い医療の提供可能な病院 ・断らない救急を実践する病院 ・広域災害時に市災害医療センターとして注力する病院 ・新興感染症の国内発生当初からしっかりと対応する病院 【大学や医師会との連携】 ・大阪大学医学部と従前からしっかり協力体制があり新病院に期待されている。 ・これにより新病院は現行２５診療科から３０診療科に増える予定である。 ・医師会も協力的で急性期の新病院対応に期待されている。 【今後のスケジュール】 ・令和６年度に基本設計に着手し、令和１０年１２月までのできるだけ早い時期の開院をめざしている。 ・指定管理は令和７年４月現行病院より始まり、新病院移行後２０年間の予定である。
所感	三重県伊賀市の「IGABITO 育成事業」については、若者の活動や想いをうまく取り込みながら地元愛の習熟とともに関係人口増をめざす、まさに一石二鳥である。さらに取り組みが拡大し様々な観点から子供から高齢者までを取り込んでいる伊賀市の当該事業は素晴らしい。 また、桑名市の「コラボ・ラボ桑名」は、民間のノウハウを活かすことで行政としての既存概念を超えて、歳入拡大、歳出削減、市民サービス向上へと結びつける素晴らしい取り組みである。 大阪府箕面市の新市立病院構想は、民間のノウハウを指定管理者として活かすことで病床確保

	や医師確保などの医療ニーズに応えるとともに経営力が確保されることで直営よりも安心安定の市立病院が運営できると感心させられた。 今回は初の会派視察であったが、いずれの自治体も共通して民間のノウハウや資金などを活用することで経費削減と効率的な事業執行を行なっており、率直にいって真似できるところは大胆に真似ていいのではと感じた。我が会派内でも今後しっかり意見交換を行ないたい。 今後、人口減少社会の中で必要な行政サービスをどのようにして提供するのか、既成概念にとらわれず、民間の知恵と財源も借りながら次世代に住みよい八女市を残せるよう様々な提案を行なうべく取組んでいきたい。 今回の視察地は、いずれも多忙な折にもかかわらず懇切丁寧にご教示頂き、この場を借りて深く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

現在時刻 11:37
伊賀市議会
八女市議会の皆さま
ようこそ伊賀市議会へ
出席議員数 22人